

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300162		
法人名	(有)たつみ		
事業所名	グループホームほっと		
所在地	瀬戸市宮里町27-1		
自己評価作成日	令和3年11月20日	評価結果市町村受理日	令和4年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2392300162-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街や緑に囲まれたお宮や神社への散歩で四季を感じて頂くことに重点を置いていましたが今年もコロナウイルス感染防止のため外出の機会が無くなり施設での楽しみに趣を置き毎日全職員がケアプランを参考に個別ケアにちからを入れて取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前管理者の体調不良による突然の退職により管理者が交代して約2年、動揺はあったものの試行錯誤を繰り返しながら動き出している。管理者は開設当時から夜勤と事務に従事していたが、日中の取組みについては不慣れなため、介護支援専門員が協力して運営にあたっている。開設当時から職員が多く、信頼関係があり、意思疎通も図られている。職員の「お互いがカバーしながらチームワークで取り組んでいる」との言葉からも、管理者、職員が助け合う姿勢がうかがえる。理念である「普通の家で生活し、楽しい人生を送る」を継承し、コロナ禍での面会にも「禁止することが本当に良いのか」を検討し、感染防止対策をした上で面会を認めている。骨折した利用者にも、近所の方の見舞いがある。家族も居室で面会をする等、普通の生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	我が施設の理念である「普通の家で生活し楽しい人生を送る」を職員全員が把握し利用者様一人一人に向き合い安心して生活ができるよう支援しています。	玄関の見やすい場所に理念を掲示し、来訪する地域住民や家族に周知を図っている。新管理者は理念を継承し、利用者一人ひとりが楽しい日々送ることができるように取り組んでいる。	体制が変わったため、一度理念について話し合う機会を持ち、職員が同じ方向性で取り組むことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様コロナウイルス感染防止のため散歩や外出が出来ず残念でした。地域の行事も全て中止になり参加はできていません。	地域行事は中止であるが、日課の散歩では近隣住人や散歩の保育園児と挨拶を交わしている。散歩中に、知り合いの人と井戸端会議をすることもある。民生委員が電話で近況を尋ねてくる等、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年、今年は外出の機会がなく地域住民とのふれあいもなく残念です。今月より少し落ち着いてきましたので少しずつ外出の機会を増やしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナウイルス感染予防の為今年度は開催できていません。施設内で実施予定日に職員で行い議事録をいつも参加していただく方々にお届けしております。	市の方針に従って運営推進会議の書面開催を継続し、年6回開催している。議事録を市・地域包括支援センターに送り、町内会長・老人会・民生委員には持参している。その際に意見交換を行い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員から電話・ファックスなどでご指摘指導をいただいた事について職員と一緒に職員会議で話っております。	運営推進会議の書面開催では、市と地域包括支援センターの職員に議事録を送付し、ホームの状況は伝わっている。市の職員と電話等で連携を図り、担当者との関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で身体拘束・高齢者虐待を皆で共有しています。玄関の施錠は安全を考え必要に応じて行っています。	毎月職員会議で「身体拘束の適正化」について検討し、チェックシートを使用して振り返ることもある。管理者・職員は身体拘束による弊害を理解し、言葉の拘束に対する意識も高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビなどで施設の虐待行為が話題になっています。虐待防止については全職員が周知し定期的にマニュアルを熟読するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用者様1名が利用しています。職員間で権利擁護セミナーを設け権利擁護の基本的視点等を学び支援に生かしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時理解・納得してサインを頂いております。改定時にはその都度同意書を公布して同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望にはその都度極力実現できるようにしています。家族には訪問時やメール等で意見交換をしています。	家族の予約面会時やメールで意見・要望を聞くように努めている。理念「普通の暮らしの継続」に基づき、コロナ対策を取った居室での家族面会を認めており、家族から感謝の言葉が寄せられた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やその都度問題が生じたら代表者、管理者、ケアマネを交え意見交換をして反映しています。	会議で意見を述べる機会はあるが、管理者には話しやすい雰囲気があり、職員は直接意見・要望を伝えている。職員からは「相談しやすくチームワークが良い」との声があり、意見をホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面は代表者が一任しています。労働条件などは職員が働きやすいように代表者と相談して決定しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修予定に添って職員会議時に社内研修は行っています。社外研修についてはコロナの時期のため今期は行っていませんでした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬戸介護協会もコロナウイルス感染予防の為機能しておらず今後交流会等があったら是非出席したいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい利用者様には常に挨拶声かけを行い話される言葉に耳を傾けています。利用者様の家族にも言い合える関係を築いて行きたいと思っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時には記録を見て頂き施設での生活状況を伝えて家族の要望等を聞いてより良い信頼関係作りを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題や困っている事など職員だけでなく家族・主治医・訪問看護師など関係事業所にも相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には教わる場面がたくさんあります。家族ではあませんが、毎日穏やかに過ごしていただけるように言葉かけに配慮し接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしや出来事、気づいた事などをメールや月初めには「ほっとだより」等で報告しています。家族の来所時には個別記録などを読んで頂きホットでの生活を知って貰っています。家族と共に本人を支えてまいります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は散歩や買い物で近所の方にお会いすると声をかけて頂いておりましたがコロナになってからは外出ができずにいました。今後又その様な関係が出来るように努めてまいります。	骨折した利用者の近隣友人が、感染防止対策をした上で見舞いに来ている。遠方の友人から特産物が届くなど、交流を継続している。園芸好きの利用者が、家族と庭の手入れをしており、趣味習慣も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リクリエーション・体操では全員が集まり皆さん一緒に楽しく行っております。利用者様同志の会話には耳を傾けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様はいませんが退所した方の家族などと外で遭った時には気軽に声をかけてくれます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	中々自分の意見を思うように言えない人には家族と相談し、本人の表情を見ながら希望を叶えられるように支援しています。	一人ひとりに合わせた優しい話し方で対応し、表情や動作を見逃さないように観察している。把握した事柄は、できるものはすぐに取り組み、できないものは検討して実現に繋げるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の訪問時など生活歴を聞いたりこちらから尋ねたりした時は記録に残すようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態を把握して出来る事できない事できる事に着目して能力を発揮して頂くように声かけをしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3~4ヶ月に一度家族の意向も伺い介護計画を作成しています。毎月の職員会議では全員のモニタリングを行い毎日のケアに努めています。	短期目標の3ヶ月毎に、計画作成担当者がモニタリングを行っている。更新時や状態変化時にはサービス担当者会議を開き、家族・利用者の要望を聞いた上で介護計画を作成し、介護記録に目標を明記している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を確認し情報を職員で共有するようにしています。必要であればそく介護計画の見直しも行うようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医や専門医など馴染の病院への通院は要望に応じるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが収まりつつあるので近所の商店街やお宮まで散歩に出かけています。その帰りに馴染のお店で買い物したりお茶を楽しんで頂くようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望している馴染の医院に通院介助をしています。	かかりつけ医の選択は自由であるが、全員が協力医の月1回の訪問診療を受け、訪問看護師が週1回健康管理に訪れている。希望により歯科、鍼灸師の往診もある。協力医とは24時間対応の体制が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護師がいない為訪問看護と契約しています。毎週水曜日に来てもらい利用者の状況を把握して貰っています。いつも相談に応じて下さっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院中は担当のソーシャルワーカーとコミュニケーションを取るようになっています。病院は施設が連絡先になりオムツや身の回りの物を持参したりし、ご本人とは会えませんが、看護師さんに様子などお聞きしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族は病院ではなく施設での看取りを希望されています。家族、本人の望む最後が迎えられるように主治医、訪問看護と相談しながら支援に取り組んでいます。	入居時にホームの方針を説明し、家族の同意を得ている。その時が来たら家族と医師、ホームで話し合い、終末期ケアの方針を決めている。協力医や訪問看護師との連携は強く、家族の安心に繋がっている。職員は看取り研修を受け、体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で急変時の対応について学び、事務所には緊急対応マニュアルが掲示しています。いろんな災害における訓練を実施しています。実際に消防署に実通報の訓練も実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回は消防訓練を行っています。新しい職員が入ったときは必ず行い、慌てず利用者様誘導できるように実施しています。最近では地震が起き台所から出火との想定で行いました。	年4回避難訓練を実施している。地震で火災発生(日中・夜間想定)の条件設定で、通報・初期消火・避難訓練をしている。ホームは市と福祉避難所として協定を結んでおり、AEDの設置もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室に入る時は必ずノックをしてから入室し、トイレ介助時はカーテンや扉を閉めるなど配慮するよう心がけています。特に入浴やトイレ時には気を付けています。	利用者の呼称は基本的には「さん付け」であるが、状況により最適な呼び方をしている。利用者を尊重し、居室へはノック・挨拶をして入室し、トイレや浴室の戸閉め励行等、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や言葉態度などで理解するようにはしていますが、本人に聞きながら出来るだけご自分で決めて頂くようにはしています。無理強いには決してしないよう心がけています。。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リクリエーション・体操等など皆さんと一緒に楽しく行って欲しい時もありますが、気分が乗らなかったり、優れなかったりする時もあるので無理強いせず本人の希望に任せています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時本人が出来ない人にはホットタオルで顔を拭く、髪の毛をとかすなどしています。2ヶ月に一度理美容を実施しています。少しでも食べこぼした服はその都度交換し、入浴時などは服を一緒に選んでいます。。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の体調や食べたいもの物を利用者様と一緒に作り、準備や後かたづけをしてもらっています。(現在手伝ってもらえる利用者様は一名)	配食業者から食材を調達している。職員は、食事場面は利用者が「力」を発揮できる機会であることを理解している。利用者は、意思や力量に合わせて一連の調理場面に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の嚥下状態に応じた食事形態栄養バランスを考え提供しています。水分は一日1000cc以上は摂取していただけるよう時間等決めて飲んでもらうようにはしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず声かけしています。出来ない人は職員が介助しています。全員ではありませんが、訪問歯科を定期的に利用して口腔内を清潔にもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄時間等を記録し、一人一人の排泄パターンを把握しています。表情や言動からも排泄支援をしています。出来るだけトイレでの排泄を心がけています。	「排泄チェック表」を活用し、トイレでの排泄を基本としている。定時誘導や利用者個々に合わせた誘導を行い、職員2人態勢で臨むこともある。2人で支援する時は、特にプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は個人差がありますが食事内容に配慮しています。なるべく野菜の多いメニューにしたり牛乳を飲んだり自然排便が出来るよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2日～3日入浴してもらっています。行事等で変更になる事もありますが、日にこだわらず利用者様の体調に合わせて調整し実施しています。	週2～3回の入浴機会がある。入浴中は利用者向き合う時間であり、利用者に合わせて話をし、ゆったりとした入浴になるように努めている。肌の弱い利用者には専用の石鹸を使う等の配慮がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に関係なく体調に合わせて休息してもらっています。安心して寝て頂けるように季節やその日の気温等に応じて空調や寝具など配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は日時名前を声を出して確認しています。主治医からの処方箋は必ず確認し、訪問看護師や調剤薬剤師には気軽に相談しています。どちらも快く応じてくださっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の趣味や好きなことなどここでも出来るように支援しています。歌が好きな人にはCDを聞きながら歌えるような雰囲気作りをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で今まで外出は出来ていなかったが今後はコロナも収まりつつあるので毎日の散歩や馴染の喫茶店や外食など出掛けたいと思っています。利用者様のご希望に添えるよう支援してまいります。	コロナ禍のため外出支援が難しい中、ドライブに出掛けて季節が感じられる花見をしたり、写真を撮ったり、日課の散歩を継続したりしている。日用品の買い出しも再開した。保育園児の散歩に、ベランダから手を振ることも利用者の楽しみである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している人はいませんが、お小遣いは家族から預かっているのでいつでも欲しいものは購入できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚にはいつでも電話したり、連絡できるようにしています。毎年年賀状も書ける人には書いてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良く明るい居間でほとんどの時間を過ごしてもらっています。季節感を味わって頂けるよう掲示物を貼ったりその月の壁画を利用者様と一緒に作っています。	新型コロナウイルス感染症感染予防策として、今年度は視察なし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で作品作りをする人、音楽を聴く人、ソファでくつろぎテレビを見る人等様々です。利用者様自身が落ち着く場所があるようです。いつもの場所に座りお話をして過ごしてみえます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真、誕生日会の色紙など個々に飾ってみえます。日、曜日の確認のためのカレンダーや時計を置いてみえます。	新型コロナウイルス感染症感染予防策として、今年度は視察なし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口やドアの前に表札を付けています。トイレは解りやすいように⇒で案内し、長い廊下は安全に歩行出来るように転倒防止の手すりを付けています。		